

令和7年度 こども園評価結果公表シート

令和8年3月

令和7年度 グランドデザイン

教育及び保育の目標

「生きる力と思いやりを持った子に育つ」

- 1、自分は愛されているという喜びを持てる。
- 2、自分の言いたいことしたいことを表現できる。
- 3、決められたことを自分の気持ちでできる。
- 4、食教育で健康な心と身体が育つ。
- 5、遊びを通して基本的な生活習慣を身につける。

重点目標

自分も友達も大切にして、
気持ちよく過ごす。

	しなやかなからだ	豊かな心	学びの根っこ
め ざ す 姿	● 健康な生活をする。 ● からだを動かしていきいきと遊ぶ。 ● 食べ物に感謝して楽しく食べる。	● 自然や身の回りのできごとに感動する。 ● 友達と考えを伝え合い折り合いをつけて遊ぶ。 ● 人と関わることの楽しさや人の役に立つ喜びを感じる。	● やりたいことを見つけてじっくりと遊ぶ。 ● 自然や身の回りのことに好奇心を持ち、発見したり考えたりする。 ● 善いこと・悪いことを考える。
大 切 に し て い る こ と	○家庭と連携した健康づくり ・早寝・早起き・朝ごはん・朝の排便習慣の定着 ・メディアとの上手なつきあい方を支援 ・安全・防災に関する教育 ・看護師と連携した保健教育 ○運動が育む丈夫なからだ ・からだを動かす遊びの充実 ・リズム体操・体育遊び ○食べることは生きること ・食教育の充実 ・栄養士、調理師との連携	○自然を愛し、自然に学ぶ ・自然を感じる体験の充実 ・四季を感じる園庭の植栽 ・自然物を使った遊びや製作 ○兄弟姉妹のように ・異年齢クラス（3、4、5歳児）と年齢別活動での関わり ・未就園児・学童児との交流 ○美しい言葉が育む豊かな心 ・語りかけや日々の会話の充実 ・体験と言葉の結びつきを支援 ○音楽を楽しむ ・頭声発声・楽器遊び・合奏	○子どもの育ちを支える環境づくり ・子どもが安心できる環境 ・発達や季節に合わせた環境 ・子どもの興味・関心を引き出す環境 ・試行錯誤ができる環境 ○遊びの中での学びの共有 ・ドキュメンテーションでの可視化 ・読み書きの土台や数量感覚を育む玩具や教材、活動の工夫 ・ルールのある遊びや粘り強く取り組むことが必要な遊びの充実 ○きまりを守る心を育てる ・博愛の精神を基盤とした関わり

地域に愛されるこども園

地域の中で

- ☐情報公開と情報発信
- ☐南魚沼の特性を活かした教育と保育

保育者としての学び

- ☐子どもの手本となる立ち振る舞い
- ☐園内研修の開催・園外研修へ参加
- ☐専門書からの学び・職員間での学び
- ☐自己評価・こども園評価



家庭とともに

- ☐子どもの育ちの共有と連携
- ☐保護者の協力を活かした活動の充実

関係機関との連携

- ☐小学校・中学校との交流
- ☐市役所、専門機関との連携

子育ての支援

- ☐こひつじのおうち（子育て支援センター）
- ☐ゆりかご（病後児保育室）
- ☐野の百合家庭教育館（放課後児童クラブ）
- ☐育児相談 ☐一時預かり



1、評価項目の達成及び取り組み状況・今後に向けて

評価項目	・取り組み状況 ○こども園関係者評価委員より
1) 教育・保育理念 職員の道徳・倫理	・野の百合こども園は、教育・保育理念の一つ目に「博愛・聖潔・キリスト教精神」を掲げ、創立から一人ひとりの子どもをかわいがる保育を実践しています。昭和から平成、令和へと受け継いできた創立の精神を大切に、子どもたちが「愛されている」という喜びを感じられるよう関わっています。 ○「園の精神」に基づく、確固たる「教育・保育理念」、「教育・保育目標」に敬意を表します。野の百合こども園の50年以上にわたる長い歴史の中で、一貫して人間愛に基づく教育を展開してきたことを改めて感じました。子ども達は「自分は愛されて育ってきた」と心の底から実感できて初めて自立ができ、他者を思いやる気持ちが育まれていくものと考えます。野の百合こども園の不滅の精神を今後も掲げ続けて、子どもたちの未来を明るいものとしていただきたいと考えています。
2) 教育及び保育 ①しなやかなからだ	〈家庭と連携した健康づくり〉 ・六日町中学校区で取り組んでいる「元気アップ週間」を年3回実施しました。元気アップの取り組みを通して、「家で読み聞かせを始めた」「朝の排便を意識した」という声が聞かれました。朝食を食べている子どもは約95%で、朝排便している子どもも昨年から増えています。就寝時間が遅い傾向があり、規則正しい生活リズムの定着が課題です。生活リズムの定着やメディアとの付き合い方などに関する情報提供を行い、家庭と連携したリズムづくりに努めます。 ・体育遊びのバリエーションを増やし、子どもたちが楽しんで体を動かせるようにサーキット遊びを工夫しました。また、リズム体操や体育遊びとともに、散歩や鬼ごっこや水遊びや雪遊びなど自発的な運動遊びを大切に、体を動かす心地よさを感じられるように関わります。 ・給食展示に旬の食材の紹介や調理の工夫など栄養士のメッセージを添えています。また、おやつや料理が出てくる絵本と給食レシピを組み合わせたお便りを家庭へ配布しました。今後は記載するレシピ数を増やすとともに、離乳食やアレルギーに対応した代替え食へのアレンジ等も紹介していきます。 〈安全・防災に関する教育〉 ・安全計画に基づき、安全教育（生活安全・交通安全・災害への備え）を実施しています。避難訓練では火災訓練の他に、不審者、水害、竜巻突風、地震、Jアラートなど様々な災害を想定した訓練を行いました。 〈看護師と連携した保健教育〉 ・こども園と子育て支援センターに看護師を1名ずつ配置し、健康管理と保健教育を行っています。 ○生活リズムの確立は社会全体の大きな課題です。保護者アンケートの結果でも、子どもの生活習慣に関する設問への回答に課題が見られるようです。園からの生活リズムに関する啓発を継続し、定期的に保護者に自己評価を促す取り組みは効果的だと思いますし、さらに継続・発展させることができるとよいのではないのでしょうか。例えば、保護者から家庭で工夫した取り組みや心がけていることを紹介してもらい、それを新たな啓発の材料にするなどすると、保護者の気付きや改善の意欲の向上が見られるかもしれません。 ○「食べることは生きること」に共感します。食育の充実は重要な視点ですね。社会の変化の中で家庭での食事の風景も様々になっています。本来嬉しいはずの食事の時間がそうでない場合もあるはずですが。だからこそ1日1食でも栄養満点、愛情たっぷりのおいしく温かい給食を、先生と仲間とみんなで一緒にニコニコしながら食べる経験は健康な体と心を育ててくれます。その食事の中に、自分たちで作った野菜や味噌が入ってくれば子どもの喜びは倍増します。様々なご苦勞があるかと思いますが、これからも食べることの楽しさをたくさん経験させていただきたいと願っています。

評価項目	・ 取り組み状況 ○こども園関係者評価委員より
②豊かな心	・ 南魚沼の豊かな自然を感じられるよう、坂戸山を望む土手沿いを散歩コースにしています。また、園庭の草花を遊びに取り入れたり食卓に飾ったりして、自然や四季を感じやすい環境を整えました。 ・ 「美しい心を育もう」と題して、月ごとに園生活の様子を紹介したドキュメンテーションを家庭へ配信しました。挨拶や感謝、言葉遣いなど、人として大切なことについて園と家庭が共通理解を深める機会となりました。 ・ 日頃から、職員みんなで子どもたちの手本となるような言葉遣いを心掛けています。また、「私たちは 五つ教える時も 三つ褒める時も 二つ叱る時も 肯定語で愛します」を合言葉として、子どもたちと関わっています。 ○入園のしおりに「美しい言葉が育む豊かな心」とありますが、全職員でこのことを実践されていることが伝わってきました。否定的な言葉をかけられては、自己肯定感は育まれませんね。音楽発表会の中でも、先生方の子どもへの言葉かけが丁寧で優しさにあふれていました。「子どもにとって教師が最大の教育環境」と言いますが、まさにその通りの姿でした。
③学びの根っこ	・ 子どもたちの興味や関心を引き出す環境づくりに努めました。0歳児クラスでは子どもの興味に合わせた手作り玩具を製作し、遊びの様子をドキュメンテーション等で保護者へ伝えました。今後も、子どもたちの「やってみよう」という気持ちを大切に関わります。 ・ 5歳児クラスでは、「どうしたら、自分も友達も気持ちよく過ごせるのか」を考えられるよう関わりました。喧嘩の場面だけでなく、みんなで一緒に活動する時のきまりについても話し合い、子ども同士で考える機会をつくったことで、自分たちなりに解決しようとする姿が見られました。集団や社会は、互いに決まりを守ることで維持・存続しています。決まりは私たちに窮屈な思いをさせるものではなく、自由で安心な生活を守るためにあります。今後も友達と一緒に気持ちよく過ごすために必要な決まりを、自分の気持ちで守れるように支えていきます。 ○年度のグランドデザインを定めることは、職員の支援のベクトルをそろえることにつながります。その上で、定期的に自己評価、保護者評価を行い、結果を分析し改善策を検討し公表することで、教育・保育の質がさらに向上します。貴園のグランドデザインは小学校との接続を見据え、「知・徳・体」の3つの柱からなっているそうですが、幼保小の連携の中で子どもを育てようという意味を感じました。
3、家庭、地域、学校との連携について	・ 南魚沼市教育委員会の教育長を講師に迎え、「心の根っこを育む言葉の力」と題して保護者対象の子育て講演会を開催しました。参加された方からは、「耳が痛いところもあったけれど、言葉の体験の大切に気付いて良かった」「子どもとの会話を大切にしたい」などの声が聞かれ、子育てについて考える良い機会となりました。 ・ 幼児期の教育から小学校教育への連続した学びを支えるために六日町小学校と学校区の保育園・こども園が連携し、「架け橋期カリキュラム」を作成しました。また、小中学校の授業の受け入れを通して、子ども同士の交流を図りました。今後も、地域の教育機関と連携し情報交換や交流を深めます。 ・ 3歳未満児運動会を保育参加のかたちに変更しました。今後も、保育参観や行事ボランティアなど保護者が園生活を体験する機会を計画していきます。 ○貴園に対する保護者の信頼が大きいと感じました。保護者アンケートの回答状況を見ると、ほとんどの設問で肯定的評価が高くなっています。先生方の日頃の取り組みの成果です。また、自由記述の意見・要望を見ても同様の結果となっています。園の確かな教育の積み重ねが、これだけ高い評価につながったものと思いました。 ○園全体で保護者との連携を深め、保護者の不安に寄り添い、子育てをサポートしようとする意図を感じました。保護者アンケートの自由記述の意見の中に「子育て経験のある先生のお話を聞きたい」「子にも親にも愛ある対応をしてくださり心が温まり、私にとって心の寄りどころ」「子どもの成長を自分のことのように喜んでくださる先生方に感謝」「親の話も聞いてほしい」などの意見がありました。保護者が悩みながら子育てに当たっていること、不安を持ちながら子育てをしていることなどに対して、先生が的確に対応して保護者の支援に当たられていることに敬意を表します。

評価項目	・ 取り組み状況 ○こども園関係者評価委員より
	また、「親として喜びを感じる瞬間を教えてください」という設問により、保護者が我が子を見つめ、自分自身の子育てを振り返る貴重な機会となっていると思いました。さらに、この設問の回答を保護者全体に返すことで、他の保護者の思いを知ることにつながり、子どもへの別の視点や視野の広がりにつながる効果的な取り組みだと思いました。反面、職員の自己点検・自己評価では、保護者との連携について「B評価」の年代が多いようですが、連携の相手先の声からして、自らの取り組みに自信を持ってよいのではないかと考えました。
4、保健、安全管理について	・ 保健や安全についてのマニュアルや指導計画に基づいて実践しました。職員会議ではヒヤリハット報告や検討を行い、職員間で共通理解を図っています。加えて、月のテーマ（全国で起きた事故事例や季節で起きやすい事故など）をクラスが持ち回りでまとめ、職員同士で学び合いました。感染症の流行もありましたが、今後も家庭と連携して感染症の拡大を予防していきます。
5、職員の専門性に関する研修・資質の向上について	・ 夏の研修では、職員が個々に子どもの遊びと学びを可視化したドキュメンテーションを作成し、ポスターセッション方式で研修を行いました。また、秋の研修では「六日町小学校区で期待する架け橋期の子ども像」についてのグループワークを行いました。職員が主体的に学ぶよい研修となりました。職員が楽しみながら学びを深められるよう、研修の手法を工夫していきます。

2、こども園評価委員より

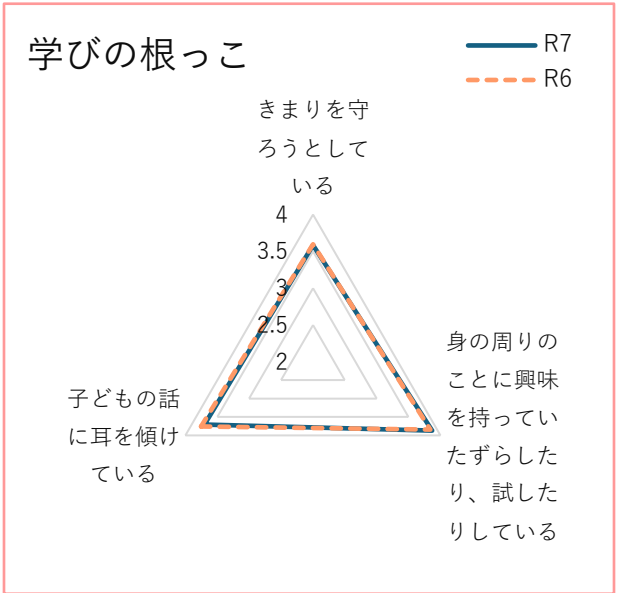
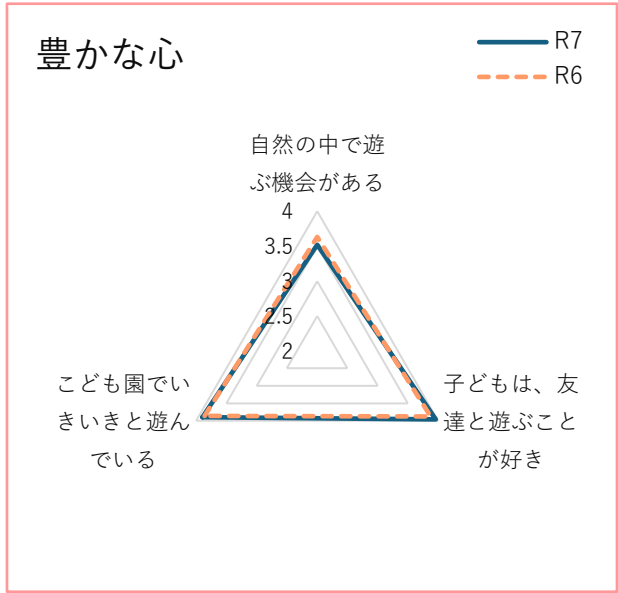
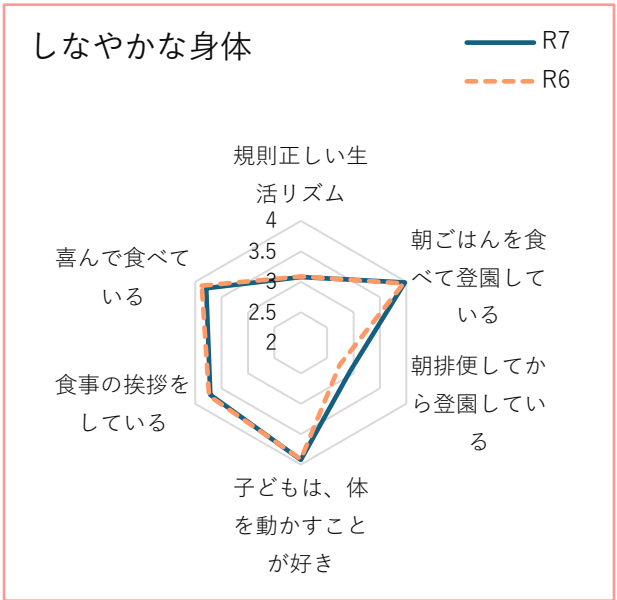
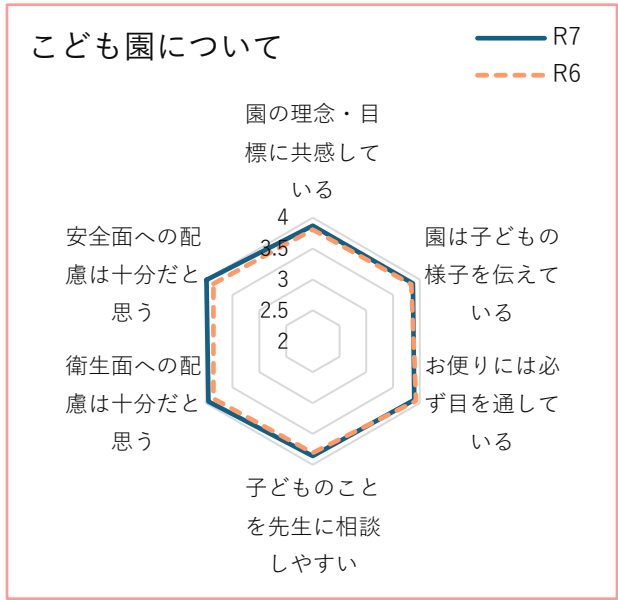
音楽発表会を参観して

- (1) 園長先生のご挨拶が印象に残りました。
- 祖父母の皆さんに対して、音楽発表会のねらいをグランドデザインに掲げている「音楽を楽しむ」具体的な姿をもとに的確に説明されていました。大変分かりやすく納得のいくお話でした。また、ご挨拶の中で、3月は大きく成長した卒園児が、小学校や中学校の卒業後に大勢挨拶に来てくれるというお話がありました。職員としてはとても嬉しい時間であるとのことでしたが、なかなかないことだと思いました。そして、来訪を予想して貴園では子どもたちの園時代の写真を掲示されているお心遣いをされていて、心動かされました。これこそ、野の百合こども園の素晴らしさを物語っているのだと感じました。
- (2) 子どもたちの発表が素晴らしかったです。
- かたくり、こすもす、ゆり、それぞれの年齢の発達段階を踏まえた発表となっていました。どの子も姿勢よく、前を向いて、緊張の中にも笑顔を見せながら生き生きと発表していました。みんなで「一緒に演奏する楽しさ」、多くの人に「見てもらえる喜び」にあふれた表情でした。また、子どもたちの美しい歌声に感動しました。小学校就学前の子どもたちの歌声としては他に類を見ないレベルにあるのではないのでしょうか。頭声発声をグランドデザインに掲げていましたが、普段からの指導の成果を感じました。当然のことですが、ステージ上で集中を欠いているような子どもがごく僅かですが見られました。その際、隣の子どもがさりげなく優しく合図をすると、よそを見ていた子どもがまた指揮する先生に気持ちを向ける場面を目にしました。子ども同士の関わりが温かくほんわかとしていて、良好な人間関係が構築され仲間意識が育っているものと感じました。
- (3) 職員集団の素晴らしさを感じました。
- 私は以前から、貴園を訪れる度に温かな雰囲気を感じていました。今回、僅かな時間でしたが行事の実際の場面を拝見して、先生方の素晴らしさに改めて気付きました。先生方が常に笑顔で子どもに接していました。子どもにとって、先生方が優しくてどんなときでも笑顔で受け止めてくれる安心感があるからこそ、子どもとの信頼関係が築けているのだと思います。ステージの下から指揮をする先生を、真剣に見つめ力一杯表現する子どもたちの目は皆輝いていて、先生との信頼関係の厚さを感じました。また、ステージ上の楽器の移動の場面等で、職員間のチームワークの素晴らしさを感じました。たくさんの楽器や机の移動に当たる先生方の姿に、急ぐ様子を全く感じませんでした。それでいて全く無駄のない的確な作業で、短時間でステージの変換ができました。最後にはアイコンタクトでステージ上を確認し合う様子を拝見し、素晴らしい職員集団だと思いました。



3、保護者アンケート結果

令和8年1月に保護者対象のアンケートを実施しました。ご家庭の協力により、75.5%の回答をいただきました。率直な意見や感想を聞かせていただき、園の教育と保育を見直す良い機会となっています。また、保護者の皆様にアンケート結果をまとめたお便りを配布し、更なる連携に努めています。



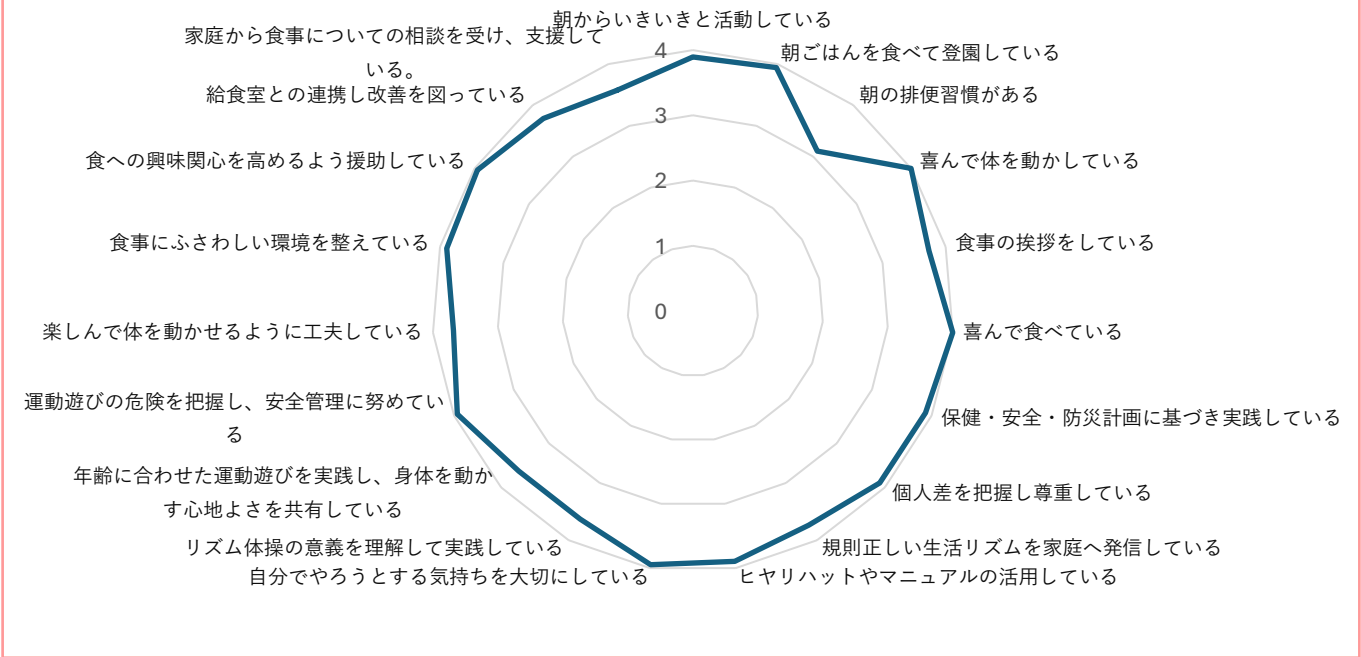
※各項目の値はA（あてはまる）：4点、B（ややあてはまる）：3点、C（あてはまらない）：2点として集計した平均値です。
※昨年度の値と比較しやすいよう、グラフの最小値を2としています。

・保護者の皆様にいただいた意見や感想、質問については、お便りとして家庭へ配布しました。

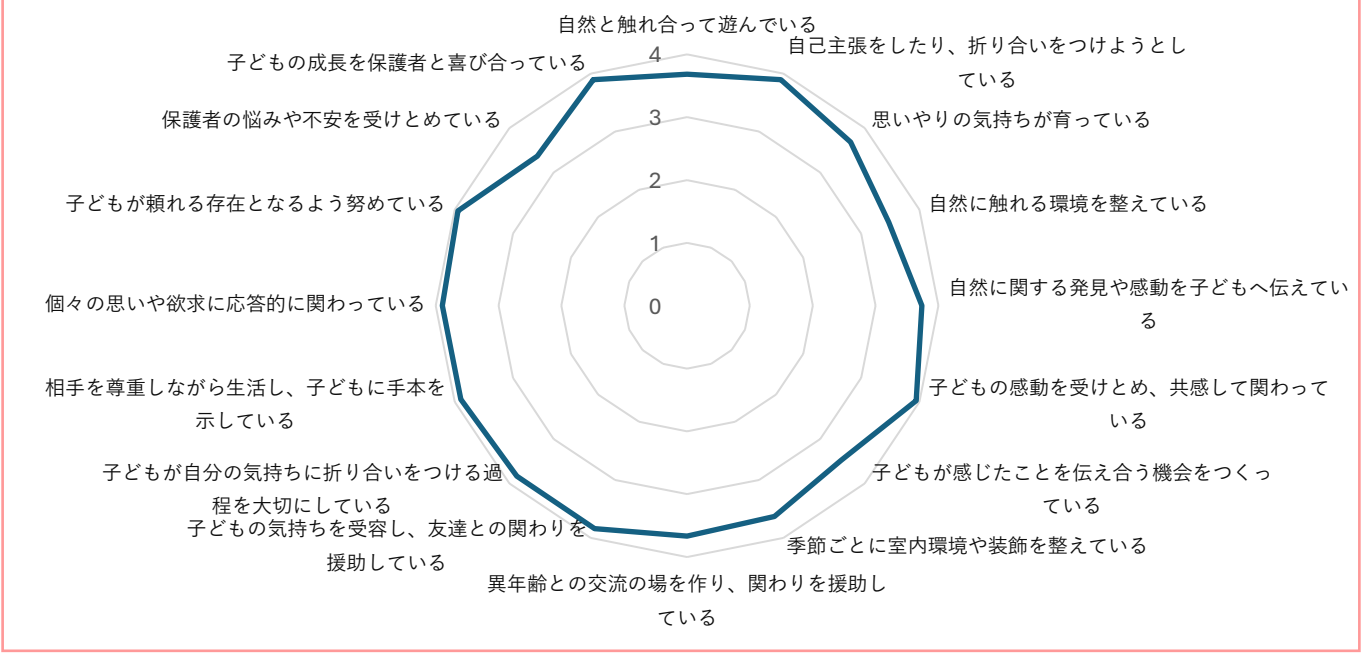


3、担任による評価結果

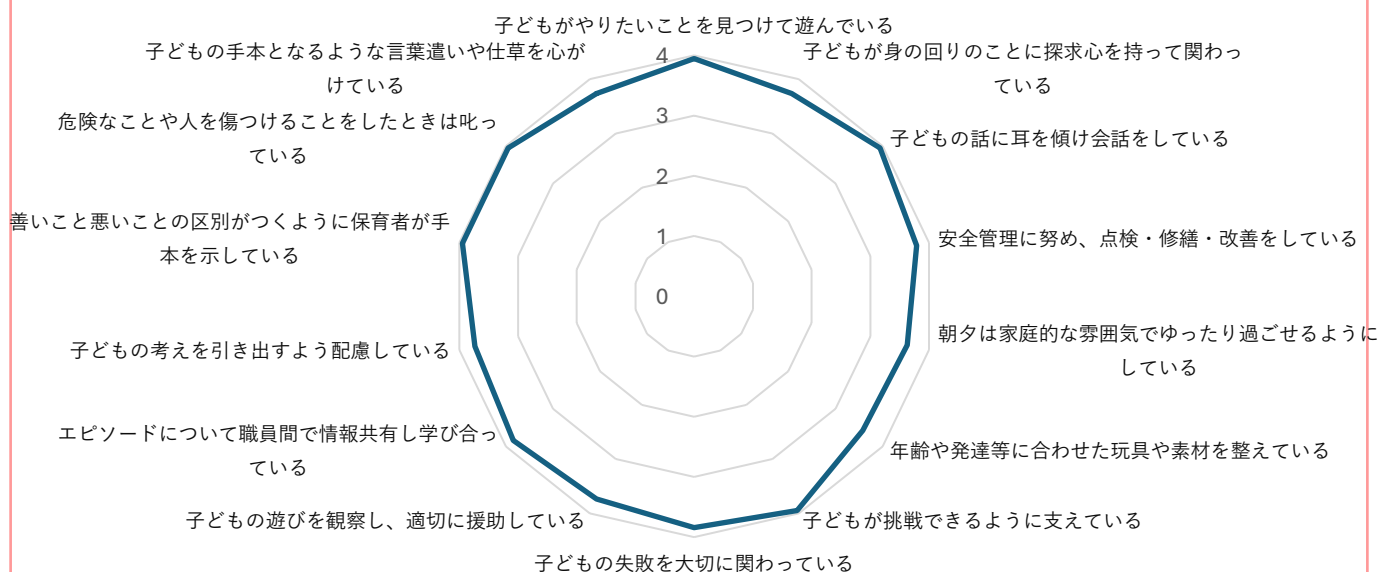
しなやかな身体



豊かな心



学びの根っこ



当園では、園の評価基準に基づいた教育及び保育従事者対象の担任評価と、福祉会のチェックリストに基づいた全職員対象の自己評価を行っています。また、職員の資質向上のために「目標・成果・自己評価シート」を作成し、職員一人ひとりが年度ごとに目標を立てて実践しています。成果や結果だけではなくそのプロセスを評価し、職員同士が学び合う雰囲気づくりを大切に進めています。



4、福祉会のチェックリストに基づいた職員の自己評価結果

評価区分		行動基準
職員としての姿勢	倫理・意欲・態度	1 法人の理念を理解・共感し、それに基づいて行動している
		2 福祉会職員としての誇りを持ち、教育的な愛情を持って子どもたちと関わっている
		3 人権尊重の理念を重視している
		4 法令や就業規則を遵守し、礼儀正しい態度で誠実に職務に取り組んでいる
		5 職員の人間性や倫理観が子どもに影響を与えることを自覚して関わっている
		6 異なる意見や立場を尊重し、職員同士で協調している
		7 時間管理の意識を持って業務改善に取り組んでいる
		8 園児や保護者に関する個人情報、法令を遵守し適正に扱っている
		9 自己の健康を管理し、維持及び回復に努めている
		10 計画に沿った研修に参加し、成果を日常の保育に活かしている
		11 研修会等の内容を事前に確認し、自己課題をもって参加している
		12 研修に参加したり専門書を読む等して、知識を習得したり技能の向上に努めている
		13 自己の課題を見つけ、その課題の解決のために計画的に取り組んでいる
		14 報告・連絡・相談を適切に行い、業務を遂行している
健康・安全に配慮できる力	健康管理・食育の推進	15 こども園の運営方針を踏まえ、よりよいクラスづくりができるよう取り組んでいる
		16 クラスの目標や活動の意図などを理解し、同僚と協働しながら実践している
		17 子どもの健康状態や発育及び発達の状態、家庭（生活）環境などに配慮している
		18 子どもの日々の健康状態を観察し、一人ひとりに合わせて対応している
		19 不適切な養育の兆候が見られないか、日々子どもや保護者の様子に留意している
		20 栄養士・調理師・保育者・保護者で連携し、食教育に取り組んでいる
		21 食物アレルギーを持つ子や特別な配慮を必要とする子について、個々に応じて対応している
		22 保育所における感染症対策ガイドラインを活用し、感染症予防に努めている。
		23 感染症などが発生若しくは発生が疑われる時は、マニュアルに沿って適切に対応している
		24 危機管理マニュアルを理解し、日常の安全管理に努めている。
教育及び保育を実践する力	危機管理	25 施設内外の異常やリスクに対し、報告等適切に対応している
		26 子どもたちの生活環境の衛生管理に留意し保持に努めている
		27 災害・不審者侵入等緊急時における自分の役割を理解し実践に移せるよう努めている
		28 子どもの気持ち、遊びや活動の意味等を理解し、一人ひとりの発達の過程を読み取っている。
		29 子どもの育ちを日々の記録やドキュメンテーション等を用いて評価している。
		30 必要な書類を期限内に提出している
		31 幼保連携型認定こども園教育・保育要領や園の運営方針に基づき、指導計画を立案・実施している
		32 指導計画に基づいた教育及び保育を実施して評価し、PDCAサイクルで改善を図っている
		33 子どもが安心して身近な環境に主体的に関わり、遊びが豊かに展開されるよう環境を整えている
		34 子ども一人ひとりに共感的、受容的に関わっている
保護者との連携	援助する	35 子どもの心身の状況等を把握し、一人ひとりに応じた配慮や援助を行っている
		36 経験年数に応じて基本技術や専門的知識を身につけ、教育と保育を実践している
		37 家庭の状況に配慮して関わっている。
		38 認知能力と非認知能力の重要性を理解し、生きる力を育んでいる。
		39 0歳（入園）から就学までの発達の連続性を考慮して、教育及び保育を行っている
		40 子どもの様子や活動の説明等を通じ保護者との相互理解に努めている
		41 親しみやすい雰囲気心がけ、保護者に対し積極的に声をかけている
		42 保護者からの意見や提案はまず肯定的に受け止め、上司に報告する等適切に対応している
		43 保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になれるよう心掛けている
		44 園児及び保護者との対応には、公平さを欠かさないようにしている
	教育保育の展開	45 行事や参観、お便りや連絡帳などを通して、保護者の子育て力の向上を促すよう努めている

